

<b>科目名</b>	<b>現代マーケティング特論 / Topics on Modern Marketing Theory</b>
<b>担当教員</b>	鈴木 和宏(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 現代商学教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
<b>開講曜限</b>	火/Tue 3
<b>配当年次</b>	1 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

#### 【目的】

この授業の目的は、受講者がマーケティング論における近年の動向やトピックを知ること、学術分野としてのマーケティング論の各論を考察できるようになることです。そのために、マーケティング論でも特にブランド論や消費者行動論などの基礎的な文献を扱い、知識の習得を目指します。

#### 【方法】

授業は輪読形式で行います。受講者は予習課題として指定された文献を精読し授業に参加します。授業では受講生のうち担当者が文献の内容を解説し、その後、全員でディスカッションを行います。また復習課題も随時出します。また、授業の後半ではマーケティング論に関する期末レポートの作成を行います。尚、授業はすべて日本語で行います。

### 達成目標 / Course Goals

以下の目標を設定します。

- ・マーケティング領域における主要なトピックを理解できる
- ・学術論文を精緻に読むことができる
- ・学術論文のレビューができる

### 授業内容 / Course contents

下記の内容は一例となります。受講者の専門やマーケティング論の知識により随時内容を変えます。

1. オリエンテーション：授業内容・進め方の説明、使用教材の決定  
予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

2. ブランド論の展開

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

3. ブランド・エクイティ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

4. 顧客ベースのブランド・エクイティ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

5. ブランド価値

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

6. ブランド経験

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

7. サービス・ドミナントロジック

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

8. 関係性マーケティング

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

9. ブランド・ロイヤルティとブランド・コミットメント

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

10. ブランド・リレーションシップ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

11. エンゲージメント

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

12. クチコミ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

13. ブランド・コミュニティ

予習：指定文献の精読 復習：復習課題の実施

14. 期末レポートの構想発表

予習：レポートの構想と発表資料の作成 復習：フィードバックの反映

15. 期末レポートの進捗報告

予習：レポートの構想と発表資料の作成 復習：フィードバックの反映とレポートの執筆

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

授業内容に併記しましたのでそちらを参照してください。

### 使用教材 / Teaching materials

受講者の関心やマーケティング論に関する知識レベルにより使用教材を随時選定します。最初の授業で決定します。書籍と論文、両方を扱います。

### 成績評価の方法 / Grading

下記の項目で評価します。ただし、課題の担当者になっているのにも関わらず無断欠席をした場合は、0点とします。

- ・授業への参加度（報告、ディスカッション）：60点
- ・レポート：40点

## 成績評価の基準 / Grading Criteria

---

以下の基準で評価します。

- ・秀（90～100点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて秀でた理解力及び応用力を有している
- ・優（80～89点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて優れた理解力及び応用力を有している
- ・良（70～79点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて良い理解力及び応用力を有している
- ・可（60～69点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて理解力及び応用力を有している
- ・不可（0～59点）：現代におけるマーケティング論のトピックについて十分な理解力又は応用力を有していない

## 履修上の注意事項 / Remarks

---

- ・履修に当たってはマーケティング論に関する入門的な知識があることが望ましいです。ただし、全く知識がなくてもある程度の配慮はします。
- ・無断欠席は原則禁止とします。また事前課題を担当している場合は、できるだけ早く欠席の連絡をしてください。
- ・質問などは下記へお願いします。

kazu-suzuki@res.otaru-uc.ac.jp

<b>科目名</b>	現代国際マーケティング特論 / <b>International Marketing Strategy</b>
<b>担当教員</b>	プラート カロラス(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 現代商学教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 後期 / Fall Semester
<b>開講曜限</b>	水 / Wed 2
<b>配当年次</b>	1 年 / 2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

The study of international marketing is concerned with the challenges, opportunities and problems that corporations face in the context of the global economy. The course consists of student presentations and in-depth class discussion of key readings from the academic literature on international marketing and strategy.

### 達成目標 / Course Goals

Students will become familiar with the key theoretical concepts and underlying forces of the globalization of markets and the academic debate on the pros and cons of standardization of the international marketing mix. In the process they will improve their critical reading, evaluation, and discussion skills and will learn more about different types of research design and writing. In the process, they will learn how to apply these insights to the design, writing and publication strategy of their own research.

### 授業内容 / Course contents

1. Orientation
2. Standardization of international marketing (1)
3. Standardization of international marketing (2)
4. Global convergence
5. Global marketing strategy: customizing global marketing
6. Standardization of international marketing strategy: research hypotheses
7. Standardization of global marketing: critical perspectives
8. Standardization versus adaptation of advertising: Practitioner versus academic perspectives
9. National culture and international marketing
10. Global marketing strategy and performance

11. Marketing mix standardization vs adaptation: theoretical advancement
12. Culture and cross-national product diffusion
13. Cross-national consumer segmentation: empirical evidence
14. Standardization's impact on performance: empirical evidence (1)
15. Standardization's impact on performance: empirical evidence (2)

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

Before each session, all participants are required to read the assignments for class discussion. Every week one of the participants will be required to present the readings for that week using slides. The participant in charge of presenting should also prepare discussion points for the session. Each participant will be asked to critically and carefully read the key reading for that week and will be asked to prepare a written synopsis of the reading and find a number of flaws in the theoretical assumptions, logic, design, or methodology of the research or writing. After each session, each participant should make personal notes on how the reading may be discussed as part of a critical review of the literature which will be required for the final written assignment for the course.

### 使用教材 / Teaching materials

Readings will be announced before the start of the course and will be shared with participants in digital format via a shared cloud-storage folder.

### 成績評価の方法 / Grading

Quality of class participation: 25%  
Presentations: 25%  
Final report: 50%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

標語 (評点) 評価基準  
秀 (100~90) 個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している  
優 (89~80) 個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している  
良 (79~70) 個々の科目について良い理解力及び応用力を有している  
可 (69~60) 個々の科目について理解力及び応用力を有している  
不可 (59~0) 個々の科目について十分な理解力又は応用力を有していない

### 履修上の注意事項 / Remarks

Readings will be in English. Class discussion may be alternatively in English and/or in Japanese to accommodate the language ability of the participants. All class participants need to submit a final report in English or Japanese.

<b>科目名</b>	現代経営組織特論／Organization Theory
<b>担当教員</b>	加藤 敬太(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
<b>開講曜限</b>	他
<b>配当年次</b>	1 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

本授業は、大学院レベルの経営組織論の教科書 Hatch, M. J.& A. L. Cunliffe (2017). 『Hatch 組織論』同文館出版を輪読し、経営組織論の最新の議論を学ぶことを目的とします。この教科書は、世界的に有名な経営組織論の教科書で、内容は網羅的です。受講生の皆さまの研究関心に応じて関連する内容を掘り下げたりしながらのディスカッションができればと思っています。

### 達成目標 / Course Goals

経営組織論の大学院生レベルの基本的な知識を習得することを最終目標とします。ご自身の研究テーマと関連付けて知識を習得することも併せて目標とします。

### 授業内容 / Course contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：『Hatch 組織論』を学ぶにあたってのイントロダクション
- 第3回：なぜ組織論を学ぶのか？
- 第4回：組織論の歴史
- 第5回：組織と環境の関係
- 第6回：組織の社会構造
- 第7回：テクノロジー
- 第8回：組織文化
- 第9回：組織の物的構造
- 第10回：組織のパワー（権力）、コントロール（統制）、コンフリクト（対立）
- 第11回：第I部「組織論とは何か？」第II部「コア概念と理論」を振り返る
- 第12回：理論と実践
- 第13回：組織論における将来有望な新しいアイデア
- 第14回：第III部「過去を振り返り、将来を見据える」を振り返る

第15回：総括ディスカッション

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

教科書の事前に決められた箇所を読んできてください。そのうえで授業中にノートを取っていただき復習に活用してください。

### 使用教材 / Teaching materials

Hatch, M. J. & A. L. Cunliffe (2017). 『Hatch 組織論—3つのパースペクティブ—』(大月博司・日野健太・山口善昭訳) 同文館出版. (Hatch, M. J. & A. L. Cunliffe (2013). Organization theory: modern, symbolic, and postmodern perspectives, 3rd ed., Oxford University Press.

※翻訳本を輪読のテキストにしたいと思います。

### 成績評価の方法 / Grading

授業中のディスカッションおよび報告の内容 100%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

- 秀 (100~90)  
輪読文献について秀でた理解力及び応用力を有している
- 優 (89~80)  
輪読文献について優れた理解力及び応用力を有している
- 良 (79~70)  
輪読文献について良い理解力及び応用力を有している
- 可 (69~60)  
輪読文献について理解力及び応用力を有している
- 不可 (59~0)  
輪読文献について十分な理解力又は応用力を有していない

### 履修上の注意事項 / Remarks

受講生の専門は問いません。ぜひご自分のご専門に基づいて経営組織論に興味を持っていただければ幸いです。

授業はZoomで行います。時間割は水曜日の6講目に設定いたします。ただし、受講生の皆さまと相談のうえ、時間割を指定しないオンデマンド授業を含めて変更も検討します。

授業内容に関しても、受講生の研究関心に応じて輪読文献の変更も臨機応変に検討します。

受講希望の方は、初回のオリエンテーションに必ず出席してください。

<b>科目名</b>	現代企業組織法務特論／Corporate Law
<b>担当教員</b>	多木 誠一郎(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
<b>開講曜限</b>	水/Wed 5
<b>配当年次</b>	1 年 / 2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	多木 誠一郎(4 3 5 号室 (1 号館) 電話 0 1 3 4 - 2 7 - 5 3 7 4 電子メール taki@res.otaru-uc.ac.jp (電子メールを送信する際には、連絡先電話番号の記載をお願いします)
<b>オフィスアワー</b>	多木 誠一郎(前期：火曜日 1 2 時 0 0 分～1 2 時 5 0 分 後期：火曜日 1 3 時 0 0 分～1 4 時 0 0 分 コロナ事態が終息していない間は、ZOOM 仮想空間で面談します。事前に面会時間の希望をメールで連絡下さい。)

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

この授業を通じて会社法についての基本的事項である目的・株式・組織・運営・資金調達等について、高度専門職ないし研究職として必要とされる基礎的学力を身につけることを目的にします。

各回のテーマごとに受講生全員で議論するゼミナール形式で行います。受講生一人一人に担当箇所を決めて発表してもらい、それに対して発表者以外の受講生に質問をしてもらいます。担当箇所や授業の進捗は受講生の関心・レベルに応じて、受講生と相談の上で決めます。

(コロナ事態への対応)

当面 ZOOM 仮想教室におけるリアルタイム配信で授業を行います。コロナの状況を見ながら、柔軟に対応したいと思います。授業中あるいは manaba (コースニュース) を通じて連絡します。

### 達成目標 / Course Goals

・会社とりわけ株式会社は経済合理性を究極まで追求しうる法形態です。私たちが知っている他の経済団体とどのような点で共通しており、反対にどのような点で異なるのかを説明できるようになること。

・なぜ共通しているのか、なぜ異なるのかを株式会社と他の経済団体の基本的特質と関連付けて説明できるようになること。

・わが国の経済団体では株式会社あらゆる面で圧倒的な存在です。ビジネスプランニングをするに際して株式会社を使いやすいからです。起業家にとってどのような点が好まれるのかを理由を挙げて説明できるようになること。

### 授業内容 / Course contents

会社とりわけ株式会社の目的・株式・組織・運営・資金調達等を下記の通り一通り取り上げる予定です。もっとも、受講生の関心に応じて柔軟に対応します。上記事項以外をテーマにして欲しい等 (例えば非営利法人法、第一次産業と法、アグリビジネスと法、商取引と法、金融決済と法、会計・監査と法)、何か特別の希望がある場合には、気軽にご相談下さい。

- ①会社とは  
(予習課題) 会社の種類  
(復習課題) 会社以外の経済団体
- ②株式会社の基礎  
(予習課題) 所有と経営の分離  
(復習課題) 経営者支配
- ③設立  
(予習課題) 株式会社設立の状況 (統計)  
(復習課題) 設立に関する責任
- ④株式  
(予習課題) 株式自由譲渡の原則  
(復習課題) 株式の譲渡制限
- ⑤株主総会  
(予習課題) 機関分化  
(復習課題) 総会の問題点
- ⑥取締役・取締役会  
(予習課題) 取締役選任の現状  
(復習課題) 取締役会の問題点
- ⑦監査役・監査役会・会計監査人  
(予習課題) 監査役選任の現状  
(復習課題) 監査役の問題点
- ⑧指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社  
(予習課題) 委員会の導入状況  
(復習課題) モニタリングモデル
- ⑨役員の実務  
(予習課題) 著名事件  
(復習課題) 責任追及の問題点
- ⑩会社の計算

(予習課題) 計算書類の確定までの手続

(復習課題) 分配可能額

#### ⑪資金調達

(予習課題) 株式発行市場の現状 (統計)

(復習課題) 株式の発行手続

#### ⑫組織再編

(予習課題) 組織再編の種類

(復習課題) 経済的機能からみた組織再編

#### ⑬企業グループ

(予習課題) 企業グループの現状

(復習課題) 企業グループの管理

#### ⑭企業形態の選択

(予習課題) ビジネスプランニングの選択肢

(復習課題) 株式会社の長短所

#### ⑮まとめ

(予習課題) 疑問事項の取上げ

(復習課題) 疑問事項に対する私見とりまとめ

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

上記「授業内容」に記載の通り

### 使用教材 / Teaching materials

田中亘『会社法』(東京大学出版会、第3版、2021年)

神作裕之ほか編『会社法判例百選』(有斐閣、第4版、2021年)

最終的には受講生の関心・レベルに応じて、受講生と相談の上で決めますので、決めるまで購入しないでください。

### 成績評価の方法 / Grading

授業への参加度(討論) 33.4%

ホームワーク(報告資料の作成) 33.3%

試験ないしプレゼンテーション(課題) 33.3%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

秀(100~90): 会社法について秀でた理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が秀でている。

優(89~80): 会社法について優れた理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が優れている。

良(79~70): 会社法について良好な理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能力が良好である。

可(69~60): 会社法について理解力を有し、会社法上の法的問題を解決する能

力がある。

不可(59~0): 会社法についての理解力が不十分であり、会社法上の法的問題を解決する能力が不十分である。

### 履修上の注意事項 / Remarks

- ・コツコツと地道に勉強していきましょう。
- ・法学の勉強をしたことがない方も履修可能です。
- ・受講生の希望があれば、①札幌サテライトでの授業、②遠隔授業、③取り上げるテーマの変更等(上記「授業内容」参照)、柔軟に対応します。気軽にご相談下さい。コロナ事態への対応については上記「授業の目的・方法」を参照。

科目名	ビジネスと経済制度 / Business and Economic Institution
担当教員	江頭 進(商学部)
授業科目区分	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
開講学期	2022 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
開講曜限	火/Tue 6
配当年次	1 年 / 2 年 / 3 年
単位数	2
研究室番号	
オフィスアワー	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

この授業では、経済学と経営学（組織論）との接点を、制度という視点から考えることを目的としている。経済学と経営学は隣接領域を取り扱いながら、方法論が大きく異なるため、あまり積極的な交流が図られていなかった。しかし、近年成長してきた進化経済学では、組織の意思決定や行動の視点から、市場や産業、国民経済を描くための研究が盛んである。この授業では、その入り口として、ゲーム理論を用いた組織論の教科書であるミルグロム・ロバーツ著『組織の経済学』となぜ経済学と経営学の統合が必要なのかを考えるために西部・吉田編『進化経済学 基礎』をテキストとして、議論を行う予定である。

### 達成目標 / Course Goals

社会の様々な制度を、人々の行動あるいは認識の様式として理解し、現実の事象を制度進化の観点から説明できること。

### 授業内容 / Course contents

- 第1回 経済組織
- 第2回 コーディネーション:市場と組織
- 第3回 モティベーション:契約、情報とインセンティブ
- 第4回 効率的なインセンティブの提供:契約と所有
- 第5回 雇用:契約、報酬、キャリア
- 第6回 資金調達:投資、資本構成、コーポレート・コントロール
- 第7回 組織のデザインとダイナミクス
- 第8回 進化経済学とは何か?
- 第9回 モデルと相性問題
- 第10回 進化経済学から見えてくる世界

- 第11回 基礎概念
- 第12回 進化経済学のモデル
- 第13回 進化経済学の対象
- 第14回 進化経済学と政策
- 第15回 まとめ

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

- 第1回 事前学習 『組織の経済学』第1章と第2章の報告準備
- 第2回 事前学習 『組織の経済学』第3章と第4章の報告準備
- 第3回 事前学習 『組織の経済学』第5章と第6章の報告準備
- 第4回 事前学習 『組織の経済学』第7章と第8章の報告準備
- 第5回 予習課題 『組織の経済学』第9章と第10章の報告準備
- 第6回 予習課題 『組織の経済学』第11章と第12章の報告準備
- 第7回 予習課題 『組織の経済学』第13章と第14章の報告準備
- 第8回 事前学習 『進化経済学 基礎』第1章の報告準備
- 第9回 事前学習 『進化経済学 基礎』第2章の報告準備
- 第10回 事前学習 『進化経済学 基礎』第3章の報告準備
- 第11回 事前学習 『進化経済学 基礎』第4章の報告準備
- 第12回 事前学習 『進化経済学 基礎』第5章の報告準備
- 第13回 事前学習 『進化経済学 基礎』第6章の報告準備
- 第14回 事前学習 『進化経済学 基礎』第7章の報告準備
- 第15回 事前学習 授業中に指定

なお各講義ごとに各自復習を行いその日の講義の疑問点はすべて解消しておくこと。

### 使用教材 / Teaching materials

1. 西部忠・吉田雅明編『進化経済学 基礎』、日本経済評論社。
2. ミルグロム・ロバーツ『組織の経済学』、NTT 出版。

### 成績評価の方法 / Grading

- 授業への参加度（事例、討論、調査） 20%
- ホームワーク（事前課題の提出） 20%
- 試験ないしプレゼンテーション（最終課題） 60%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

経済学科の基準に従う。

### 履修上の注意事項 / Remarks

- ・マイクロ経済学特にゲーム論の基礎を理解していることが望ましい。

<b>科目名</b>	<b>労務管理特論／Human Resource Management and Labor Relations</b>
<b>担当教員</b>	金 鎔基(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
<b>開講曜限</b>	火/Tue 2
<b>配当年次</b>	1 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	金 鎔基(519)
<b>オフィスアワー</b>	金 鎔基(まず Email (kim@res.otaru-uc.ac.jp) によるコミュニケーション。対面の面談が必要と判断されれば、Email で日時を調整する。ゼミの場合はラインも併用される。)

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

本授業では、まず人材管理の基本理論と、いわば日本的雇用慣行にかかわる主なイシューを総括したうえで、日本企業にとって近年のホットな課題とされるグローバル人材マネジメント（ビジネスのグローバリゼーションに対応した人材マネジメント）、ダイバーシティ・マネジメント（女性雇用など労働力の多様化、雇用形態の多様化に対応した人材マネジメント）、組織活性化とイノベーションに関わる諸問題（心理的安全性、OKRなど）の現状と課題を分析的に検討する。具体的なテーマに沿って最新の研究成果を検討することによって、人的資源管理の各領域に対する理解を深めるとともに、実証分析の多様な方法に馴染むことが目的である。

### 達成目標 / Course Goals

人材管理の基本理論を一通り整理する。  
雇用慣行の国際比較、日本の特徴をめぐる諸論点を要約できる。  
ダイバーシティ・マネジメントの総論と各論ごとに近年の研究動向を理解する。  
グローバル人材市場における日本企業の立ち位置と課題を理解する。  
組織活性化とイノベーション促進にむけた主要論点を理解する。  
人材管理分野の実証方法や基礎データの概要を理解する。

### 授業内容 / Course contents

1. HRMのパラダイム転換（内部化からダイバーシティへ）
2. 内部労働市場型のキャリア（小池1～3章）
3. 長期雇用と年功賃金（小池4～6章）

4. 女性雇用・キャリアの諸問題（小池8章、その他指定テキスト）
5. 高齢者雇用（小池9章、その他指定テキスト）
6. 現地化とグローバル統合（古沢の序章～2章）
7. 日系企業の現地化問題（古沢3～5章）
8. グローバル人材マネジメントの国際比較（古沢6～7章）
9. 日本企業の留学生採用と人材管理（指定テキスト）
10. 日本企業のグローバル人材マネジメント1
11. 日本企業のグローバル人材マネジメント2
12. 心理的安全性とイノベーション1
13. 心理的安全性とイノベーション2
14. 心理的安全性と仕事マネジメント（OKRなど）
15. ダイバーシティ・マネジメントと組織活性化

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

- ①受講者は事前にテキストを熟読し、毎回要約レジュメを作成し発表（10分）する。受講者が複数の場合は輪番で担当する。
- ②事前熟読の際は、難解な用語のチェック（ネット検索など）、内容に関する質問とコメントをメモしておき授業にのぞむ。
- ③毎回授業の終盤に、受講者各自の研究関心に沿って、授業内容からの示唆や論点をめぐるディスカッションを行う。授業終了後、その内容をショットレポートにまとめ次回に提出する。

### 使用教材 / Teaching materials

小池和男『仕事の経済学』第3版（東洋経済新報社、2005年）  
村山上由紀子『人材の国際移動とイノベーション』（NTT出版、2015年）  
古沢昌之『グローバル人的資源管理論』（白桃書房、2008年）  
桑名義靖ほか『グローバルHRM：日本企業の挑戦』（中央経済社、2019年）  
エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織』（英治出版、2021年）  
その他指定テキストについては、オリエンテーションのときに知らせる。

### 成績評価の方法 / Grading

授業参加度 20%  
レジュメ作成と発表 30%  
授業中の質問とディスカッション貢献度 30%  
ショットレポート 20%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

秀（100～90）：個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している。  
優（89～80）：個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している。  
良（79～70）：個々の科目について良い理解力及び応用力を有している。



可（69～60）：個々の科目について理解力及び応用力を有している。

不可（59～0）：個々の科目について十分な理解力又は応用力を有していない。

### 履修上の注意事項 / Remarks

---

受講者数が少ない場合は、受講者の研究関心を反映して授業内容を多少変更することもありうる。また英語による授業を望む受講者に対応できる場合もあるので、メールによる事前相談が望ましい。

Taking this class in English is available sometimes. Feel free to contact me by e-mail.  
<kim@res.otaru-uc.ac.jp>

<b>科目名</b>	<b>産業集積特論／Industrial Agglomeration</b>
<b>担当教員</b>	林 松国(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 組織マネジメント教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
<b>開講曜限</b>	火/Tue 4
<b>配当年次</b>	1 年 / 2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

目的：産業集積とは特定地域に関連性のある多数の企業が集積することであり、産業集積論の系譜の原典である Marshall (1920) ではその経済性について、企業間における社会的分業が形成されるがゆえに相互依存や競争の関係が強まり、そのもとで産業集積全体として外部変化への対応能力が存在すると指摘されている。他方、近年ではソフトウェア産業集積といったハイテク型の新しい産業集積について、集積内立地企業間の競争と協調を通じたイノベーションの創出効果に関心が集まっている。本授業では、このような新しい産業集積を対象に、「既存の産業集積」の経済性と比較しながら、実践コミュニティの概念を導入し、集積形成のプロセスを詳細に考察することで、ハイテク型産業集積の経済性とイノベーション創出の拠点となった本質を理論的、実証的に考察する。

方法：テキストの事前精読、レジュメ・コメント作成、ディスカッションによる問題・論点の理解の深化、検討の整理および思考の定着化。

### 達成目標 / Course Goals

産業集積の諸理論についての理解を深め、そのうえで、ハイテク型産業集積の経済性とイノベーション創出機能について分析できるようになる。

### 授業内容 / Course contents

#### 1 産業集積とは何か？

予習課題と復習課題は授業中に指示する。

#### 2 産業集積の経済性

予習課題と復習課題は授業中に指示する。

#### 3 シリコンバレー①

予習課題:指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 4 シリコンバレー②

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 5 シリコンバレー③

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 6 シリコンバレー④

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 7 シリコンバレー⑤

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 8 新しい産業集積とスピノフ・ベンチャー

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 9 スピノフ企業家の学習コミュニティ

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 10 浜松地域のソフトウェア集積とスピノフ連鎖の実態

予習課題:指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 11 札幌地域のソフトウェア集積とスピノフ連鎖の実態①

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 12 札幌地域のソフトウェア集積とスピノフ連鎖の実態②

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 13 浜松地域の光電子集積とスピノフ連鎖の実態

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 14 中国北京中関村ソフトウェア集積とスピノフ連鎖の実態

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

#### 15 産業集積事例の比較分析

予習課題：指定教材の該当箇所の精読

復習課題：学習内容の整理・定着化

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

授業内容に書かれている通りである。

## 使用教材 / Teaching materials

---

テキスト：

- ①アナリー・サクセミアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
- ②長山宗広（2012）『日本のスピノフ・ベンチャー創出論：新しい産業集積と実践コミュニティを事例とする実証研究』同友館

参考文献：

- ①渡辺幸男（2011）『現代日本の産業集積研究：実態調査研究と論理的含意』慶応義塾大学出版会
- ②『中小企業白書』各年

プリント：

随時配布

## 成績評価の方法 / Grading

---

授業への参加度（事例、討論、調査）：60%

ホームワーク（事前課題の提出）：10%

試験ないしプレゼンテーション（最終課題）：30%

## 成績評価の基準 / Grading Criteria

---

秀（100～90）：個々の科目について秀でた理解力及び応用力を有している

優（89～80）：個々の科目について優れた理解力及び応用力を有している

良（79～70）：個々の科目について良い理解力及び応用力を有している

可（69～60）：個々の科目について理解力及び応用力を有している

不可（59～0）：個々の科目について十分な理解力又は応用力を有していない

## 履修上の注意事項 / Remarks

---

当講義では、講義中の積極的な発言、議論を求める。

教科書を輪読する方法をとるが、受講者が作成する発表内容及びレジュメが単なる教科書の要約であると判断される場合、成績評価対象から除外する。与えられた課題内容を自分なりに読み解き、解釈、考察することで、発表のポイントを明確にする、あるいは課題から新しいテーマをフロアーに提起することを求める。

<b>科目名</b>	<b>現代管理会計情報特論／Management Accounting</b>
<b>担当教員</b>	乙政 佐吉(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 企業情報戦略教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
<b>開講曜限</b>	木/Thu 2
<b>配当年次</b>	1 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

本科目の目的は、管理会計の諸概念と企業経営における管理会計情報の利用方法について学ぶとともに、管理会計研究の全体像を把握することである。高度専門職としてのコンサルタントおよび教育研究者の育成を想定している。

前半には、管理会計の発展過程を通じて伝統的管理会計と戦略的管理会計について学習する。後半においては、管理会計を研究するにあたってどのようなアプローチがあるのかについて検討する。授業は基本的に、事前に準備してもらった予習課題について報告をしてもらった上で、報告内容に関して議論をするという形で進めていく。

### 達成目標 / Course Goals

達成目標として、次の三点を挙げる。

- ・管理会計研究を進めていく上での学術的基礎を身につける。
- ・管理会計の諸技法や諸理論について自主的に研究を進めることができるようになる。
- ・研究テーマに即した研究方法論を採用・実施できるようになる。

### 授業内容 / Course contents

- (1)イントロダクション
- (2)管理会計の基礎概念と原価概念
- (3)管理会計の発展 (1)
- (4)管理会計の発展 (2)
- (5)インターラクティブ・コントロール
- (6)ABC/ABM
- (7)品質原価計算
- (8)原価企画
- (9)BSC

- (10)情報経済学アプローチ
- (11)行動科学アプローチ
- (12)コンティンジェンシー・アプローチ
- (13)影響アプローチ
- (14)管理会計システムの導入研究
- (15)管理会計の研究動向

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

本講義の目的を達成するために、毎回、予習課題および復習課題をこなす必要がある。予習および復習課題についてはイントロダクション時に示す。以下の点に留意しながら課題に取り組むこと。

- ・わからない語彙等は必ず調べておくこと。
- ・自らの経験に照らしながらテキストの理解に努めること。
- ・興味をもった技法や理論に関しては自ら関連論文を検索すること。

### 使用教材 / Teaching materials

詳細はイントロダクション時に示す。

- ①溝口一雄編著 (1987) 『管理会計の基礎』 中央経済社。
- ④Simons, R. (1995), *Lever of Control*, Boston, Mass: Harvard Business School Press.
- ⑧ Kaplan, R. S. and D. P. Norton (2001), *The Strategy-Focused Organization: How Balanced Scorecard Companies Thrive in the New Business Environment*, Boston, MA : Harvard School Press.

### 成績評価の方法 / Grading

授業への参加度 (事例、討論、調査) : 50%  
 ホームワーク (事前・事後課題の提出) : 50%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

秀 (100～90) :

管理会計について秀でた理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について秀でた分析をすることができる。

優 (89～80) :

管理会計について優れた理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について優れた分析をすることができる。

良 (79～70) :

管理会計について基本的な理解力を示し、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について分析をすることができる。

可 (69～60) :

管理会計について基本的な理解力を示すものの、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について分析をすることができない。

不可（59～0）：

管理会計について十分な理解力を持たず、管理会計を研究するためのアプローチを応用して、経営管理上の現象について分析をすることができない。

#### 履修上の注意事項 / Remarks

---

使用教材に関して、海外ジャーナル（論文）および既に絶版となっている文献に関してはコピーを配付する。それ以外の文献については購入が必要である。

ただし、シラバスの内容は変更する場合がある。詳しくはイントロダクションの際に説明する。

<b>科目名</b>	現代情報システム特論 / <b>Advanced Information Systems</b>
<b>担当教員</b>	深田 秀実(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 企業情報戦略教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
<b>開講曜限</b>	火/Tue 3
<b>配当年次</b>	2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	深田 秀実(1号館 433 室)
<b>オフィスアワー</b>	深田 秀実(随時：ただし、事前に E-mail で連絡して下さい)

### 授業の目的・方法 / **Course Objectives and method**

本講義では、社会システム基盤としての情報システムの構築や活用に関する理解を深めることを目的とする。

現代の情報システムを捉えるためには、人間系、コンピュータ、ネットワークなどの各要素技術とともに、社会、組織、ビジネス環境などとの相互作用という観点が重要となる。本授業では、このような多様な観点から、情報システムやソフトウェア開発方法のあり方、現状の課題などを明らかにするための考察を行う。

講義方法は、文献の精読、課題としたテーマに関する議論、受講生が作成してきたレジュメのレビュー等とする。ただし、受講生との協議によって、講義方法や授業内容を変更する場合がある。

### 達成目標 / **Course Goals**

現代の情報化社会において、情報システムは重要な社会基盤となっており、各組織における諸活動を支える上で必要不可欠である。本授業では、情報システムやソフトウェア開発方法に関する課題とその解決策について理論的に指摘できることを目標とする。

### 授業内容 / **Course contents**

#### 1 イントロダクション

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 特になし

#### 2 情報システムやソフトウェアの役割の進化、IT 環境の変化

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 3 ソフトウェア開発プロセス

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 4 ソフトウェアのモデリング

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 5 ソフトウェア開発モデル (1) : ウォータフォールモデル

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 6 ソフトウェア開発モデル (2) : インクリメンタルモデル

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 7 ソフトウェア開発モデル (3) : 進化型プロセスモデル 1

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 8 ソフトウェア開発モデル (4) : 進化型プロセスモデル 2

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 9 アジャイル開発

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 10 アジャイル開発による先行モデルの問題点解決の考え方

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 11 システムエンジニアリング

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 12 ソフトウェアプロジェクトの管理

予習課題 次回範囲のレジュメ作成 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 13 リスクマネジメント

予習課題レジュメ資料全体のまとめ(1) 復習課題 コメント吸収と見直し

#### 14 品質マネジメント

予習課題レジュメ資料全体のまとめ(2) 復習課題 コメント吸収と見直し

15 ビジネス環境との協調、相互作用という視点からの情報システムのあり方に関する考察

予習課題 なし 復習課題 まとめ資料の全体的見直し

### 事前学修・事後学修 / **Preparation and review lesson**

事前学修として、使用するテキストの該当箇所を事前に通読しておくこと。事後学修として、講義中に議論した重要ポイントを整理しておくこと。

### 使用教材 / **Teaching materials**

次に記載するテキストのうち、受講希望の大学院生と協議し、使用教材を決めることとする。

1) Roger Pressman, Software Engineering: a practitioner's approach, Seventh edition, McGraw Hill, 2010.

2) David Avison, Guy Fitzgerald : Information Systems development: Methodologies, Techniques & Tools, 4th edition, McGraw-Hill, 2006.

3) アリスタ・コバーン, アジャイルソフトウェア開発, ピアソン・エデュケーション, 2002.

### 成績評価の方法 / **Grading**

- ・授業への参加度（事例，討論，調査）：30%
- ・ホームワーク（事前課題の提出）：20%
- ・最終課題：50%

※最終課題は，毎回作成したレジュメをレポートにまとめたものとする。

## 成績評価の基準 / Grading Criteria

- ・秀（100～90）：現代における情報システムの構築，利用，課題などについて，秀でた理解力，実践的知識をもっている。
- ・優（89～80）：現代における情報システムの構築，利用，課題などについて，優れた理解力，実践的知識をもっている。
- ・良（79～70）：現代における情報システムの構築，利用，課題などについて，良い理解力，実践的知識をもっている。
- ・可（69～60）：現代における情報システムの構築，利用，課題などについて，理解力，実践的知識をもっている。
- ・不可（59～0）：現代における情報システムの構築，利用，課題などについて，理解力，実践的知識が不十分である。

## 履修上の注意事項 / Remarks

授業内容は，担当教員によるひとつの案です。受講生の人数や希望等により，話し合いで授業内容などを変更する可能性があります。そのため，履修希望者は，初回のオリエンテーションに出席して下さい。

また，授業方法は対面方式を予定しておりますが，状況によってリアルタイムオンライン方式に変更する場合があります。講義実施時間に関しても，受講生との話し合いによって変更する場合があります。

なお，本講義の履修を予定している大学院学生は，事前に（講義開始予定日の3日前までに）担当教員へ電子メールで連絡して下さい。

（担当教員メールアドレス：fukada@res.otaru-uc.ac.jp）

<b>科目名</b>	情報技術特論／Information Technology Theory
<b>担当教員</b>	沼澤 政信(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 企業情報戦略教育研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
<b>開講曜限</b>	水/Wed 2
<b>配当年次</b>	1 年 / 2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	沼澤 政信(4 号館 451 室)
<b>オフィスアワー</b>	沼澤 政信(事前にメールで連絡をしてください。)

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

本授業は、情報技術の一つである Web 技術について、深い知識を有し、教育・研究およびビジネス分野の各種問題に応用する能力を身につけることを目的とします。現在の高度情報化社会を支える情報技術の一つに Web 技術があります。半構造的な知識ベースにより情報を表現してネットワークに蓄積する、API 等を利用してソフトウェア資産を共有するなど、Web 技術はインターネットサービスやシステムにおいてデータ連係やデータ通信の中心的な技術です。そのような現状を踏まえ、本授業では、ネットワークの知識、Web 技術の知識および Web アプリケーションと Web セキュリティの知識について学びます。

### 達成目標 / Course Goals

ネットワークに関する基礎知識を説明できる。  
 Web 技術に関する基礎知識を説明できる。  
 Web アプリケーションと Web セキュリティに関する基礎知識を説明できる。

### 授業内容 / Course contents

以下の（初回を除く）14 回の内容に応じて各履修者にプレゼンテーション資料の作成、およびプレゼンテーション&質疑応答を行ってまいります。

- 概説 (1 回)： ガイダンス, 知識ソフトウェア
- ネットワークの知識 (2 回)： TCP/IP, IP アドレス, DNS 等
- Web 技術(1) (3 回)： HTTP, HTTPS, CGI, JavaScript, DOM 等
- Web 技術(2) (3 回)： Servlet, JSP, フレームワーク等
- Web アプリケーション (3 回)： Web プログラミング, Web API, マッシュアップ等
- Web セキュリティ (3 回)： ファイアーウォール, 暗号化等

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

事前の指示に従って、次回の授業内容の予習をして、プレゼンテーション資料の作成とプレゼンテーションの準備をします（事前学修：1 回 7 時間程度）。

講義後は、質疑応答の内容を検討して、プレゼンテーション資料を適宜修正し、manaba から提出します。また、manaba にて講義内容を確認するための小テストを作成して公開します（事後学修：1 回 3 時間程度）。

### 使用教材 / Teaching materials

プレゼン資料作成のための参考文献をいくつか以下に示します。

- 「マスタリング TCP/IP 入門編 第 6 版」, 井上直也 他, オーム社 (2019 年)
- 「ネットワークがよくわかる教科書」, 福永勇二, SB クリエイティブ (2018 年)
- 「この一冊で全部わかる Web 技術の基本」, 小林恭平, 他, SB クリエイティブ (2017 年)
- 「スッキリわかる Java 入門 第 3 版」, 中山清喬/国本大悟, インプレス (2019 年)
- 「スッキリわかるサーブレット & JSP 入門 第 2 版」, 国本大悟, インプレス (2019 年)
- 「安全な Web アプリケーションの作り方 第 2 版」, 徳丸浩, SB クリエイティブ (2018 年)
- 「図解まるわかり セキュリティのしくみ」, 増井敏克, 翔泳社 (2018 年)
- 「この一冊で全部わかるセキュリティの基本」, みやもとくにお, 他, SB クリエイティブ (2017 年)
- 「暗号技術入門 第 3 版」, 結城浩, SB クリエイティブ (2015 年)

### 成績評価の方法 / Grading

下記の評価要素とウェイトにより、総合的に本授業の理解度を評価します。

- 授業への参加度（予習、プレゼンテーション、質疑応答）：70%
- 課題・レポートの提出：30%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

社会情報コース標準成績評価基準に従います。

### 履修上の注意事項 / Remarks

- 第 1 回の授業日の 1 週間前までに、履修者は numazawa@res.otaru-uc.ac.jp 宛に本授業の履修者である旨のメールを送付してください。
- 本授業は、原則、プレゼンテーション&質疑応答形式をとります。
- プログラミングおよびコンピューターネットワークに関する講義を学部、博士前期課程で履修していることが望ましい（ただし、履修条件ではありません）。



<b>科目名</b>	<b>ビジネスのための経済分析／Economic Anarysis for Business</b>
<b>担当教員</b>	佐野 博之(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 現代ビジネスの理論と制度教育 研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 後期／Fall Semester
<b>開講曜限</b>	木/Thu 3
<b>配当年次</b>	1 年 / 2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	佐野 博之(436)
<b>オフィスアワー</b>	佐野 博之(初回の授業でお知らせします。)

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

ビジネスのための経済分析では、ミクロ経済分析の基礎から応用までを学びます。まず、消費者と企業の行動に関するミクロ経済モデルを学び、様々な事例を交えながら市場のメカニズムに対する理解を深めることを目的とします。

授業は受講者によるテキストの内容の報告（プレゼンテーション）およびディスカッション形式で進められ、毎回復習課題として与えられたテキストの練習問題の解答を次の回に報告してもらいます。

### 達成目標 / Course Goals

不確実性下の経済・経営環境への応用分析を学ぶことで、ビジネスの場で現実に直面する諸問題に対して、ミクロ経済分析を応用できるようになることが最終目標です。

### 授業内容 / Course contents

- 1 ミクロ経済学の基本解説  
テキスト 第1章  
課題：テキスト 練習問題 1, 2
- 2 需要と供給の基本原則  
テキスト 第2章 2.1~2.4  
課題：テキスト 練習問題 1, 2, 3, 4, 5
- 3 需要と供給の基本原則  
テキスト 第2章 2.5~2.7  
課題：テキスト 練習問題 6, 8, 11
- 4 消費者行動

- テキスト 第3章 3.1~3.3  
課題：テキスト 練習問題 2, 5, 7, 12
- 5 消費者行動  
テキスト 第3章 3.4~3.6  
課題：テキスト 練習問題 14, 15, 16
  - 6 個別需要と市場需要  
テキスト 第4章 4.1~4.3  
課題：テキスト 練習問題 1, 2, 4, 6, 10
  - 7 個別需要と市場需要  
テキスト 第4章 4.4~4.6  
課題：テキスト 練習問題 12, 15
  - 8 不確実性と消費者行動  
テキスト 第5章 5.1~5.3  
課題：テキスト 練習問題 1, 3, 4, 6
  - 9 不確実性と消費者行動  
テキスト 第5章 5.4~5.5  
課題：テキスト 練習問題 7, 8, 9, 11
  - 10 生産  
テキスト 第6章  
課題：テキスト 練習問題 3, 5, 8, 10
  - 11 生産費用  
テキスト 第7章 7.1~7.3  
課題：テキスト 練習問題 2, 4, 8, 9
  - 12 生産費用  
テキスト 第7章 7.4~7.7  
課題：テキスト 練習問題 11, 13, 14
  - 13 利潤最大化と競争市場における供給  
テキスト 第8章 8.1~8.6  
課題：テキスト 練習問題 5, 7, 8
  - 14 利潤最大化と競争市場における供給  
テキスト 第8章 8.7~8.8  
課題：テキスト 練習問題 11, 14, 15
  - 15 競争市場の分析  
テキスト 第9章

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

<事前学修>

毎回、上記の授業内容で指定したテキストの範囲を事前に精読し、プレゼンテーションの準備をする。

<事後学修>

上記の授業内容の課題で指定した練習問題を解答する。さらに、次回の授業で解答を報告する。

### 使用教材 / Teaching materials

---

ロバート・S・ピンダイク, ダニエル・L・ルビンフェルド (2014) 『ピンダイク & ルビンフェルド ミクロ経済学』, 姉川知史監訳, KADOKAWA.

### 成績評価の方法 / Grading

---

以下の要素を勘案して評価します。

- ・プレゼンテーションおよびディスカッション 60%
- ・ホームワーク (課題の提出) 40%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

---

秀 (100~90): ミクロ経済分析について秀でた理解力を示し, それを応用して, 経済および経営の諸問題について秀でた分析をすることができる。

優 (89~80): ミクロ経済分析について優れた理解力を示し, それを応用して, 経済および経営の諸問題について優れた分析をすることができる。

良 (79~70): ミクロ経済分析について良い理解力を示し, それを応用して, 経済および経営の諸問題について良い分析をすることができる。

可 (69~60): ミクロ経済分析について理解力を示し, それを応用して, 経済および経営の諸問題について分析をすることができる。

不可 (59~0): ミクロ経済分析について十分な理解力を持たず, それを応用して, 経済および経営の諸問題について分析をすることができない。

### 履修上の注意事項 / Remarks

---

学部レベルのミクロ経済学の基礎を理解していること。

<b>科目名</b>	<b>ビジネス法務特論／Business Law</b>
<b>担当教員</b>	小林 友彦(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 現代ビジネスの理論と制度教育 研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
<b>開講曜限</b>	水/Wed 3
<b>配当年次</b>	2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	小林 友彦(1号館 523号室)
<b>オフィスアワー</b>	小林 友彦(木曜日 13:00-14:00)

#### **成績評価の方法 / Grading**

授業参加度（70%）、小テストまたはレポート（30%）で成績評価する。

#### **成績評価の基準 / Grading Criteria**

別途掲示する。

#### **履修上の注意事項 / Remarks**

法学について素養がなくても構いません。

#### **授業の目的・方法 / Course Objectives and method**

法学を専門としない博士後期課程学生が、ビジネス法務に関する応用的な論点について検討し、各自の研究分野における方法論や分析視角にとどのように関連させうるか検討する機会を提供することが、本科目の目的である。

（※法学を専攻する博士課程学生はいないことが前提となる。）

#### **達成目標 / Course Goals**

商学・経済学・情報科学などの履修者自身の研究分野と、多面的でビジネス法務の諸課題との接点・接合可能性について検討し、各自の研究に活かすための視座を得ることが本科目の達成目標である。

#### **授業内容 / Course contents**

履修者の専門分野に応じて、統計学・計量経済学・マーケティング等に関連するビジネス法務上の課題について、履修者が自ら関心のあるテーマについて問題提起し、それに対して担当教員が解説したり共同して検討したりすることを通じて理解を深める。

#### **事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson**

事前学修：各自の専門分野における関心事項のうち、知財侵害・AI規制・個人データ保護・広告規制など、ビジネス法務上の課題としても現れうるものを調べる。

事後学修：授業で検討した法的分析について、各自の専門分野における今後の研究においてどのように役立つか整理する。

#### **使用教材 / Teaching materials**

履修者と相談して決定する。

<b>科目名</b>	<b>ビジネスにおける情報活用特論 / Topics in Information Management in Business</b>
<b>担当教員</b>	平沢 尚毅(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 現代ビジネスの理論と制度教育 研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
<b>開講曜限</b>	木/Thu 2
<b>配当年次</b>	2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

現代のビジネスにおける情報活用は、従来のように、効率的に情報を管理運用するだけでは、創発的な価値を組織にもたらすことはできない。組織における情報の意味づけまで遡って、情報を再構築することによって、初めて新たな価値を創出する仕組みを構築できる。

本講義では、もの作りやサービス設計に応用するために、戦略的に情報を収集し、顧客やユーザの立場から再構成しながら可視化し、さらに、これを検証しながら、新たな提案を創出するまでの方法について学習を進める。

### 達成目標 / Course Goals

本講義を通して、顧客やユーザの立場からもの作りやサービス設計を実施するために、戦略的に情報を収集し、再構成し、新たな提案を創出するまでの方法を学ぶ。

### 授業内容 / Course contents

#### 第1回 情報通信技術の経営システムへの影響

情報通信システムが経営システムへ与える影響について、業務の効率化の観点から考察する。

予習課題：経営情報システムの歴史を調査する。

復習課題：経営情報システムの事例を調査する。

#### 第2～3回 情報通信技術によって生まれた新たなシステム

(1) 2000年以降の情報通信技術と特徴と傾向を理解する。

(2) これらの情報通信技術によって生まれた、新たな業務の背景と今後の展望を考察する。

予習課題：2000年以降の情報通信技術によって生じた新たな業務システムを調査する。

復習課題：新たな業務システムの事例を調査する。

#### 第4～5回 情報通信技術によって変化した顧客との関係

(1) 情報通信技術の発展と、そのステークホルダの変移を概観する。

(2) 情報通信技術の発展共に、顧客の位置づけがどのように変移したかかを理解する。

予習課題：経営情報システムの中で、顧客に関わるシステムについて調査する。

復習課題：顧客マネジメントシステムの事例を調査する。

#### 第6～7回 開発システム—システムライフサイクルプロセスについて

(1) 情報通信技術を応用した製品/システム/サービスのライフサイクルプロセスについて理解する。

(2) 顧客を中心に考えたライフサイクルプロセスについて考察する。

予習課題：システムライフサイクルプロセスについて調査する。

復習課題：製品/システム/サービスのライフサイクルプロセスの事例を調査する。

#### 第8回 開発戦略

情報通信技術を応用した製品/システム/サービス開発のための戦略の考え方を考察する。

予習課題：戦略立案に関する基本的な考え方を調査する。

復習課題：製品/システム/サービスを想定した開発戦略を立案する。

#### 第9～10回 企画・構想

(1) 情報通信技術を基盤にした、一般的な企画・構想のプロセスを理解する。

(2) を応用した製品/システム/サービスの企画・構想の考え方を考察する。

予習課題：製品/システム/サービスの企画・構想の立案方法を調査する。

復習課題：想定した製品/システム/サービスの企画・構想を立案する。

#### 第11～13回 要求事項定義

(1) 製品/システム/サービスの要求事項定義の概念について理解する。

(2) ステークホルダ要求事項定義を理解し、方法を学ぶ。

(3) 製品/システム/サービスの要求事項定義を理解し、方法を学ぶ。

予習課題：製品/システム/サービスの要求分析定義方法を調査する。

復習課題：想定した製品/システム/サービスの要求分析定義を実施する。

#### 第14回 インタラクション設計

情報通信技術を応用した製品/システム/サービスの利用者とのインタラクションを設計するための方法を習得する。

予習課題：製品/システム/サービスのインタラクション設計方法を調査する。

復習課題：想定した製品/システム/サービスのインタラクションを設計する。

#### 第15回 評価

情報通信技術を応用した製品/システム/サービスの要求仕様を評価するための方法を習得する。

予習課題：製品/システム/サービスを評価するための方法を調査する。

復習課題：想定した製品／システム／サービスを評価する。

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

---

開発プロセス全体を理解するために、特定のシステム／ソフトウェア／サービスの開発プロセスを理解していること。可能であれば、開発経験があることが望ましい。

また、講義にあたって、次の基本的な概念を理解しておくこと。

- ・ユーザエクスペリエンス
- ・アクセシビリティ
- ・ユーザビリティ

### 使用教材 / Teaching materials

---

テキスト等は、必要に応じて配布する。基本的にはパワーポイントを利用して講義をする。場合によっては、実験室を利用することがある。

### 成績評価の方法 / Grading

---

授業への参加度（事例、討論、調査） 20 %

ホームワーク（事前課題の提出） 40 %

試験ないしプレゼンテーション（最終課題） 40 %

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

---

学部社会情報学科科目と同じ基準を用いる。

秀（100～90）：当該科目について秀でた理解力、及び応用力を有している。

優（89～80）：当該科目について優れた理解力、及び応用力を有している。

良（79～70）：当該科目について良い理解力、及び応用力を有している。

可（69～60）：当該科目について理解力、及び応用力を有している。

不可（59～0）：当該科目について十分な理解力、又は応用力を有していない。

### 履修上の注意事項 / Remarks

---

情報処理センターを利用する場合があるので、事前に利用申請を済ませておくこと。

<b>科目名</b>	<b>保険とリスク／Insurance and Risk</b>
<b>担当教員</b>	中浜 隆(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 現代ビジネスの理論と制度教育 研究分野
<b>開講学期</b>	2022 年度／Academic Year 前期／Spring Semester
<b>開講曜限</b>	水/Wed 7
<b>配当年次</b>	1 年 / 2 年 / 3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

授業の目的：

現代のビジネスと生活（企業と家計）にとって不可欠な保険システムの機能と保険業の役割を理論面・実証面から学習し、現代のビジネス活動と国民生活に必然的に付随し、複雑化・多様化するリスクに対して保険システムと保険業が果たす機能・役割と課題を習得することを目的とします。

授業の方法：

当授業は日本語で行います。また、履修者は少数なので、ゼミ形式（報告と討論）で行います。なお、履修者は少数なので、履修者の関心・研究内容に応じて、下記の「3. 授業内容」と「5. 使用教材」については変更することもあります。

### 達成目標 / Course Goals

本科目の達成目標は、以下のとおりです。

- ・ 保険理論に対する理解力と応用力を高める。
- ・ 保険システムと保険業についてレベルの高い分析ができるようになる。

### 授業内容 / Course contents

- 1 回目 人口減少時代と保険業  
予習課題：教材の第 1 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 2 回目 生活設計と生命保険  
予習課題：教材の第 2 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 3 回目 第三分野保険の動向と課題  
予習課題：教材の第 3 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 4 回目 「金融と保険の融合」と規制改革

- 予習課題：教材の第 4 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 5 回目 生命保険会社の資産運用と課題  
予習課題：教材の第 5 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 6 回目 教材の第 I 部（第 1 章～第 5 章）全体の討論  
予習課題：討論内容の準備 復習課題：討論内容の整理と要約
- 7 回目 小テスト（第 1 回）  
出題範囲：教材の第 I 部（第 1 章～第 5 章）
- 8 回目 リスクマネジメントビジネスの新展開  
予習課題：教材の第 6 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 9 回目 保険業界の再編と経営戦略  
予習課題：教材の第 7 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 10 回目 損害保険会社の海外進出  
予習課題：教材の第 8 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 11 回目 中国保険市場の成長と展望  
予習課題：教材の第 9 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 12 回目 消費者主権と保険規制  
予習課題：教材の第 10 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 13 回目 人口減少時代と保険業の戦略的課題  
予習課題：教材の第 11 章の予習 復習課題：論点の整理と要約
- 14 回目 教材の第 II 部（第 6 章～第 11 章）全体の討論  
予習課題：討論内容の準備 復習課題：討論内容の整理と要約
- 15 回目 小テスト（第 2 回）  
出題範囲：教材の第 II 部（第 6 章～第 11 章）

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

上記の「授業内容」の項目で、各回の授業の「予習課題」と「復習課題」を記載しています。

### 使用教材 / Teaching materials

田畑康人・岡村国和（編著）『人口減少時代の保険業』慶應義塾大学出版会、2011 年

### 成績評価の方法 / Grading

成績は、下記の「評価の要素」と「ウェイト」に基づいて評価します。

〔評価の要素〕	〔ウェイト〕
授業への参加度（討論）	50%
期末レポート	50%

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

- ・ 秀（90 点以上）：保険理論に対して秀でた理解力と応用力を示し、保険システムと

保険業について秀でた分析をすることができる。

・優 (80 点～89 点) : 保険理論に対して優れた理解力と応用力を示し、保険システムと保険業について優れた分析をすることができる。

・良 (70 点～79 点) : 保険理論に対して良い理解力と応用力を示し、保険システムと保険業について良い分析をすることができる。

・可 (60 点～69 点) : 保険理論に対して理解力と応用力を示し、保険システムと保険業について分析をすることができる。

・不可 (59 点以下) : 保険理論に対して理解力と応用力を示しておらず、保険システムと保険業について分析をすることができない。

### 履修上の注意事項 / Remarks

大学院博士前期課程(修士課程)で保険関係科目を履修していない履修者は、たとえば下記の保険専門書(他の保険専門書でもよい)で保険用語と保険理論を事前に学習しておいてください。

・近見正彦・堀田一吉・江澤雅彦(編)『保険学 補訂版』有斐閣、2016年

・田畑康人・岡村国和(編著)『読みながら考える保険論〔増補改訂版〕』八千代出版、2013年

<b>科目名</b>	<b>博士論文執筆計画 / Prospectus for Doctoral Dissertation</b>
<b>担当教員</b>	商大 先生(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 博士論文執筆計画
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 後期 / Fall Semester
<b>開講曜限</b>	他
<b>配当年次</b>	1 年
<b>単位数</b>	4
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

「博士論文執筆計画」では、まず理論研究、実証研究、事例研究、歴史研究等の基本的研究スタイルに関する研究方法論を複数教員により教授します。講義の後、学生は指導教員の下で研究テーマに関する先行研究の読解、適切なアプローチの選択、参考資料やデータの収集方針など総合的な研究指導を受け、5 枚程度の博士論文執筆計画書（プロスペクタス）を作成し、博士論文執筆計画審査会に提出します。博士論文執筆計画審査会では、博士論文執筆計画書審査基準に基づき執筆計画の妥当性及び論文執筆に必要な基礎知識を評価します。

### 達成目標 / Course Goals

博士論文執筆計画書（プロスペクタス）を作成し、博士論文執筆計画審査会で論文の構想をプレゼンテーションし、執筆計画の妥当性及び論文執筆に必要な基礎知識について評価を受けて合格することを目標とします。

### 授業内容 / Course contents

研究指導教員が学生と個別に面談の上、指導内容を決定します。

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

研究指導教員ごとに個別に学生に提示します。

### 使用教材 / Teaching materials

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介します。

### 成績評価の方法 / Grading

「博士論文執筆計画審査会要項」及び「博士論文執筆計画書審査基準」に基づき評価

します。  
 （シラバス「VI規程関係」に掲載の審査会要項及び審査基準を参照のこと）  
 （審査事項）  
 ・論文テーマの重要性（論文テーマの学術的・社会的意義及び貢献が意識されているか）  
 ・論文の構成（計画されている論文構成が適切か）  
 ・研究方法の妥当性（計画されている研究方法是妥当か）  
 ・研究の実施可能性（研究計画は実施可能か）

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

博士論文執筆計画審査会での発表内容により、執筆計画の妥当性及び論文執筆に必要な基礎知識を評価し、小樽商科大学大学院商学研究科履修規則第 6 条に基づき、秀（100 点～90 点）、優（89 点～80 点）、良（79 点～70 点）、可（69 点～60 点）及び不可（59 点以下）に分け、可以上を合格とします。

### 履修上の注意事項 / Remarks

初回授業時又は授業の都度、研究指導教員が指導します。



<b>科目名</b>	<b>博士論文指導 I / Seminar for Doctoral Dissertation I</b>
<b>担当教員</b>	商大 先生(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 博士論文指導I
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 後期 / Fall Semester
<b>開講曜限</b>	他
<b>配当年次</b>	2 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

条に基づき、  
秀 (100 点~90 点)、  
優 (89 点~80 点)、  
良 (79 点~70 点)、  
可 (69 点~60 点) 及び  
不可 (59 点以下) に分け、可以上を合格とします。

#### 履修上の注意事項 / Remarks

初回授業時又は授業の都度、研究指導教員が指導します。

#### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

「博士論文指導」は、正副指導教員が博士論文執筆を総合的に指導しますが、進捗過程に応じて「博士論文指導 I」(2 単位)、「博士論文指導 II」(2 単位) 及び「博士論文指導 III」(2 単位) に分割し、博士論文執筆に向けて体系的、組織的指導を行います。

「博士論文指導 I」では、オープン形式の中間報告会を開催し、教員及び他の学生からのアドバイスを受けます。

#### 達成目標 / Course Goals

博士論文のテーマと構成、研究方法をまとめ、中間報告会でプレゼンテーションし、自己の論文の示唆を得て、博士論文指導 II へ繋がります。

#### 授業内容 / Course contents

研究指導教員が学生と個別に面談の上、指導内容を決定します。

#### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

研究指導教員ごとに個別に学生に提示します。

#### 使用教材 / Teaching materials

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介します。

#### 成績評価の方法 / Grading

博士論文中間報告書及び中間報告会のプレゼンテーション内容に基づき評価します。

#### 成績評価の基準 / Grading Criteria

中間報告会での発表内容により評価し、小樽商科大学大学院商学研究科履修規則第 6

<b>科目名</b>	<b>博士論文指導 II / Seminar for Doctoral Dissertation II</b>
<b>担当教員</b>	商大 先生(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 博士論文指導II
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
<b>開講曜限</b>	他
<b>配当年次</b>	3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

「博士論文指導 II」では、博士論文事前審査会を博士論文執筆計画審査会と同様の要領で設置・開催し、博士論文の完成可能性を審査します。博士論文事前審査会の審査に不合格となった場合は、改めて博士論文事前審査会の審査を受けなければなりません。

### 達成目標 / Course Goals

博士論文事前審査会においてプレゼンテーションを行い、博士論文の完成可能性について、博士論文事前審査基準に基づいた評価を受け、合格することを目標とします。

### 授業内容 / Course contents

研究指導教員が学生と個別に面談の上、指導内容を決定します。

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

研究指導教員ごとに個別に学生に提示します。

### 使用教材 / Teaching materials

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介します。

### 成績評価の方法 / Grading

- 「博士論文事前審査会要項」及び「博士論文事前審査基準」に基づき評価します。  
(審査事項)
- ・論文テーマの重要性 (論文テーマの学術的・社会的意義及び貢献が明確に意識されているか)
  - ・論述の一貫性 (テーマに沿って問題が適切に設定され、論述が一貫し、結論が明確

に述べられているか)

- ・先行研究及び関連研究に関する理解 (計画されている研究テーマに関する先行研究及び関連研究が十分に渉猟され、適切に理解されているか)
- ・研究テーマの妥当性 (研究方法は、テーマ及び問題設定に相応しいものか、また、資料・データの取り扱いや分析結果の解釈は妥当か)
- ・独創性 (テーマ、問題設定、研究方法又は結論等に評価すべき独創性があるか)
- ・体裁 (引照が適切に行われ、学術論文としての体裁が整っているか)

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

博士論文事前審査会での発表内容により、博士論文の完成可能性について評価し、小樽商科大学大学院商学研究科履修規則第 6 条に基づき、  
秀 (100 点~90 点)、  
優 (89 点~80 点)、  
良 (79 点~70 点)、  
可 (69 点~60 点) 及び  
不可 (59 点以下) に分け、可以上を合格とします。

### 履修上の注意事項 / Remarks

初回授業時又は授業の都度、研究指導教員が指導します。

<b>科目名</b>	<b>博士論文指導 II (佐野) / Seminar for Doctoral Dissertation II</b>
<b>担当教員</b>	佐野 博之(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 博士論文指導II
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 前期 / Spring Semester
<b>開講曜限</b>	他
<b>配当年次</b>	3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	佐野 博之(436)
<b>オフィスアワー</b>	佐野 博之(初回の授業でお知らせします。)

#### **授業の目的・方法 / Course Objectives and method**

中間報告会で報告した博士論文執筆計画に基づいて履修者が博士論文の進捗を詳細に報告し、正副指導教員が適切な助言を与えることで改善を加えて、博士(商学)の学位に相応しい論文の提出につなげることを目的とします。

#### **達成目標 / Course Goals**

博士論文事前審査会の審査に合格するような論文を執筆することを目標とします。

#### **授業内容 / Course contents**

#### **事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson**

#### **使用教材 / Teaching materials**

#### **成績評価の方法 / Grading**

#### **成績評価の基準 / Grading Criteria**

#### **履修上の注意事項 / Remarks**

<b>科目名</b>	<b>博士論文指導 III / Seminar for Doctoral Dissertation III</b>
<b>担当教員</b>	商大 先生(商学部)
<b>授業科目区分</b>	現代商学専攻博士後期課程 博士論文指導III
<b>開講学期</b>	2022 年度 / Academic Year 後期 / Fall Semester
<b>開講曜限</b>	他
<b>配当年次</b>	3 年
<b>単位数</b>	2
<b>研究室番号</b>	
<b>オフィスアワー</b>	

### 授業の目的・方法 / Course Objectives and method

「博士論文指導 III」では、博士論文審査会を開催し、提出された博士論文を審査すると共に、当該学生がビジネスの複合性、多様性を理解していると同時に、理論、制度、環境及びツール等のバランスのとれた学識を身につけているという本課程の理念にふさわしい博士であるかを評価する「最終試験」を行います。

### 達成目標 / Course Goals

博士論文審査会においてプレゼンテーションを行い、博士論文審査及び最終試験に合格することを目標とします。

### 授業内容 / Course contents

研究指導教員が学生と個別に面談の上、指導内容を決定します。

### 事前学修・事後学修 / Preparation and review lesson

研究指導教員ごとに個別に学生に提示します。

### 使用教材 / Teaching materials

研究テーマと研究方法に応じて重要な参考図書を紹介します。

### 成績評価の方法 / Grading

- 「博士論文審査会要項」及び「博士論文及び最終試験審査基準」に基づき評価します。  
(審査事項)
- ・論文テーマの重要性
  - ・論述の一貫性
  - ・先行研究及び関連研究に関する理解
  - ・研究方法の妥当性
  - ・独創性
  - ・体裁  
(最終試験)
  - ・専攻分野に関する高度の専門的知識を有するか
  - ・当該専攻分野に関連する分野の基礎的知識を有するか

### 成績評価の基準 / Grading Criteria

博士論文審査会で博士論文審査及び最終試験を行い、小樽商科大学大学院商学研究科履修規則第6条に基づき、  
秀 (100点~90点)、  
優 (89点~80点)、  
良 (79点~70点)、  
可 (69点~60点) 及び  
不可 (59点以下) に分け、可以上を合格とします。

### 履修上の注意事項 / Remarks

初回授業時又は授業の都度、研究指導教員が指導します。